

## ミヤマヒダリマキマイマイ (ヒラヒダリマキマイマイ)

*Euhadra scaevola* (Martens) (*E. s. interioris* Pilsbry)

## 【選定理由】

愛知県下では、西三河から東三河にかけて広く分布するが、ごく稀に確認される程度の生息密度の低い稀産種である。瀬戸市定光寺ではかつて生息していたが、現在では確認できず、絶滅したと考えられる。東三河は、亜種のミカワマイマイとの移行地域であり、どちらも明確な識別が難しい殻形態の個体も存在する。全国的にも絶滅が危惧される種であり、生息密度が低い上、生息地が減少傾向にある種である。

## 【形態】

殻長 20.1~24.2 mm、殻径 37.0~44.5 mm 程度の、平らに近い低円錐形の左巻き種である。殻表には明瞭な成長肋が多数現われ、茶褐色の薄い殻皮で覆われる。周縁は円く、細く不明瞭な色帯を有する。殻径の 1/5 程度の幅の臍孔周囲にも不明瞭な色帯は認められ、0204 型の色帯となる。軟体の頭足部は黄褐色で、濃い茶色の小斑が散在する。

## 【分布の概要】

## 【県内の分布】

西三河から東三河 (奥三河を含む) にかけて広く分布するが、生息地は限られ、多くは東三河で確認される。

## 【世界および国内の分布】

日本固有種であり、関東地方から近畿地方北部にかけて分布する (財団法人 自然環境研究センター, 2010)。中部地方~近畿地方北部の個体群は、ミカワマイマイも含めて亜種のヒラヒダリマキマイマイに該当すると結論付ける報告 (川瀬・他, 2015) もある。

## 【生息地の環境/生態的特性】

愛知県内での本種の確認地の環境は、山地の自然林やスギ植林である。谷部の沢や河川に沿った森林環境の林床では主に枝や落葉堆積下に確認される。自然林では岩礫の堆積するガレ場や沢沿いの朽木下に確認され、スギ植林では、沢や川沿いに厚く堆積した枝や落葉下に確認される傾向が強い。本属の中でも特に高温度の環境を好み生息適地とする種である。食性については植物食で、分解の進んだ落葉などを食べて生活していると推測される。静岡県中部のミヤマヒダリマキマイマイ (名義タイプ亜種) では、6 月上旬の降雨後の朝に野外で産卵中の個体が確認され、初夏が産卵期と考えられている (早瀬, 2005)。また、産卵から成貝に達するまでに、少なくとも丸 2 年間を要し、産卵後 3 年目には成貝になると推定されている (早瀬, 2005)。

## 【現在の生息状況/減少の要因】

瀬戸市定光寺ではかつて生息していたが、現在では確認できず、絶滅したと考えられる。減少傾向が認められる上に、生息場所はきわめて狭く局所的であり、周辺での環境の悪化や開発行為などがあれば直ちに個体群消滅につながる。沢などの環境は、近年の豪雨の影響でひどく荒廃している。また、治水目的などで砂防堰堤などのコンクリート構造物に改変される傾向が近年著しい。これらの要因により減少傾向が著しいと考えられる。また、本種は貝類コレクターの収集対象になり易い大形種であることから、乱獲される可能性が高い。

## 【保全上の留意点】

現在、本種の生息が確認される地域の自然環境を維持することが重要である。本種の生息する、限られた環境を開発しないことが最も重要である。また、本種は貝類コレクターの乱獲を防ぐためにも県レベルでの捕獲規制などを検討する必要もある。

## 【特記事項】

愛知県内の本種個体群は、ミトコンドリア DNA の解析結果からはヒラヒダリマキマイマイに該当し、ミカワマイマイとの差異が認められないとされる (川瀬・他, 2015)。一方、関東~静岡県中部に分布する名義タイプ亜種のミヤマヒダリマキマイマイとは遺伝的分化があるので、ヒラヒダリマキマイマイとして区別される (川瀬・他, 2015)。ただし、川瀬・他 (2015) の結果には、核 DNA の解析結果が示されていないことや長野県や山梨県、岐阜県北部の個体の解析が全くされていないなどの検証不十分な点も多くあるために、現時点では、この結果をそのまま信頼する事は出来ず、種名に反映させなかった。したがって、静岡県西部~愛知県東部の石灰岩地を中心に分布する周縁角の鋭い個体群をミカワマイマイとし、石灰岩地から外れ、周縁が円い個体については亜種名を明確にせず、種レベルでのミヤマヒダリマキマイマイとした。愛知県の 2 亜種は、生物学的には、区別の必要がない可能性も高いと考えられるが、殻形態によりおおむね分布傾向の差異が認められ、地域個体群としても識別可能である点を重視し、従来の 2 亜種のままとして扱った。愛知県は、本種群 3 亜種の移行地域であり、この地域の個体群の存在が重要であり、保護する必要がある。

## 【引用文献】

早瀬善正, 2005. 静岡県中部で確認した陸産貝類 2 種の繁殖行動, かきつばた, (31): 36-38.  
川瀬基弘・西尾和久・森山明彦・市原 俊・桜井栄一, 2015. ミヤマヒダリマキマイマイ (腹足綱: ナンバンマイマイ科) 種内の形態変異と分子系統, Molluscan Diversity, 4(1-2): 5-13.  
財団法人 自然環境研究センター, 2010. ミヤマヒダリマキマイマイ, p.982. in: 自然環境保全基礎調査 日本の動物分布図集, 1070 pp. 環境省 自然保護局 生物多様性センター, 富士吉田.

## 【関連文献】

東 正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑 増補改訂版, xvi + 80pls. + 343pp. 保育社, 大阪.  
湊 宏, 2014. ミヤマヒダリマキマイマイ, p.363. in: 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編) レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6 貝類, 口絵 8 + xliii + 455pp. ぎょうせい, 東京.  
野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類, pp.23-40. in: 佐藤正孝・安藤 尚 (編), 愛知の動物, 325pp. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

(早瀬善正)



ミヤマヒダリマキマイマイ, 豊根村三沢, 1989年5月5日, 木村昭一採集